

松江の暮らしを、 未来を紡ぐ5つのテーマ



P12-P13



P14-P15



P16-P17



P18-P19



P20-P21

まちの現状や将来への展開をまとめ、
松江での暮らし、松江での子育てをお勧めできる理由をまとめました。



Director's Note

みちよってVol.8 編集後記

支援現場の思いを伝える「こんな人に支えられている松江の子育て」を担当しました。どの現場も、ママ、パパ、子どもたちのために動いている方々の愛を感じる取材でした。「こんな時に利用できる子育て支援サービス」では、行政・民間の子育て支援を状況別にまとめてみました。出産、育児中、仕事復帰、家族の病気など、人手が足りない時はもちろん、疲れをためずに家族時間を楽しむために上手に利用してもらうきっかけの一つにしていだけたら幸いです。

中澤ゆかり

初めて今回参加させていただきました。「未来」のテーマで、取材をさせていただきました。一緒に活動している「たまめん」の仲間へ改めてインタビューをするのは少し照れくさく緊張しましたが、知らない事もたくさんあって、それぞれの思いがあり意外な一面も見ることができました。普段は伝えられないいろいろな気持ちが詰まっている内容になっていると思います。文章を書いている僕も幸せな気持ちになりました。ありがとうございました。

シモヤマヨシマサ

「コウちゃんが行く!」のコウちゃんも4歳になりました。「みちよって!」での取材は0歳からさせてもらっている今年で5年目。と、いうことは、「ねえみちよって!」は5周年ではないですか!記念すべき号を読んでいただきありがとうございます。今回から新メンバーも加わり、さらにパワーアップして松江の魅力伝えてまいります。松江が、ここに住む子どもたちにとって、誇れるまちであり続けるように...

河野美知

車生活に慣れ、歩くことも自転車に乗ることも少なくなりました。今日このごろ。近所や市内を散策してみると、公園や緑がすぐ近くにあって遊ぶ場所に困らない恵まれた環境にいたんだということに気づきました。一度故郷を離れたからこそ分かった松江の魅力「ねえみちよって」で伝えられたらと思います。初めて制作に携わりましたが、メンバーがみんな柔らかか〜い感じで、アットホームな雰囲気の中で楽しく進めることができました!

麻田香里

今回から編集委員に入り、「出生」と「学び」のページなどを担当させてもらいました。4年前に東京から1ターンし、今は2歳の娘と夫と3人で暮らしています。海辺でピクニックをしたり、水辺でのマルシェに出店したり、この地ならではの楽しみを発見するのが喜びです。それをこの『みちよって』で発信したり、また国際交流を通じて私が感動した松江の魅力海外の人とも共有したいと思っています。松江の豊かさがさらに広がりますように。

松本朝子

カメラマンとしてファイナダー越しに見る松江市の光景は、子ども1人に対する関係人口の多さこそが子どもたちの豊かな笑顔につながっているように思います。それは今に始まった事ではなく、何世代も前から引き継ぐ地域の良い伝統であると個人的に感じています。これから私達がやらなければいけない事は、豊かな子育て環境を次世代に引き継いでいく事だと思います。我が子以外にも目を向ける地域を松江全体で作っていきましょう。

大西大和

みちよってを作成する度に、松江っていいとこだな、なんて、思いにふけています。これまで、みちよっての制作に携わらせていただき、思ったのは、松江って『ちょうどいい!』まちなんだと再認識した。田舎で都会でもないんだけど、なんか、ちょうどいい!子育て、遊び、行政(市民の声が反映しやすいetc)など、みちよってを通して皆さんの松江への思いが温かい思いになってくれるのであれば、最高にうれしいです。

太田達也

今号は「学び」を担当しました。松江は、子どもが「学ぶ」環境も機会も、ほどよい距離に様々があると思います。興味あるものだけでなく、文化的、国際的なチャレンジも、豊かな心の子育ちにつながるな〜と改めて感じました。

中村和可子